



<目次>

1. 2021年度支援金・支援物資ご報告
2. 福島支援活動ご報告
3. ネパール・ウクライナ・ベネズエラ
4. 温熱活動報告

2021年度 活動報告

2021年度は昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックという状況下での活動となりました。

世界の子供たちのために(CheFuKo)は、これまで活動を行ってきた福島、ウクライナ、ネパール、ベネズエラにおいて、このような時だからこそ支援を止めることなく活動を継続してまいりました。海外の支援先は、今年度も現地に赴くことはかありませんでしたが、提携する現地団体との連携で支援を実施いたしました。国内の支援先である福島は、緊急事態宣言の状況を見ながら、今年度は8回訪問することができました。以前のような「温熱施術」を中心とした活動ではなく、現地のニーズに沿った活動を展開しました。

海外ではベネズエラにおいて、子どもたちへの炊き出し支援先が2団体増えることとなり、ベネズエラ国内の3か所で継続的に炊き出し支援を実施しました。CheFuKoを継続的に支援してくださっている皆さまのおかげで、必要としている人たちに、継続的に支援を届けることができました。今年度の活動をご報告いたします。



写真：炊き出しで食事をもらい笑顔の子どもたち（ベネズエラ）

2021年度 支援物資・寄付一覧

2021年1月1日から11月30日までに実施した支援の内容を記載しています。

国名	支援先	支援物資	金額 (円換算)
ウクライナ		計	800,000
	チェルノブイリホステージ基金	・寄付金	110,818
	ジトーミル子ども精神病院	・殺菌照射器2台 ・空気循環器1点	40,446
	オブルチ地区病院産婦人科	・センサー付ディスペンサー11台	60,946
	ジトーミル州立子ども病院	・殺菌灯3台 ・眼科スペクトル装置1台	100,283
	ジトーミルV. Bashek子ども病院	・人口呼吸装置7台 ・手術用吸引装置1台	60,946
	ナロディチ病院小児科	・殺菌灯1台 ・手術用吸引装置1台	48,756
	ジトーミル第12学校	・殺菌灯5台	54,297
	オブルチ第3学校	・ソープディスペンサー10台 ・給水機5台 ・運動用マット3枚、畳4枚 ・血压計1台	64,048
	グラドコヴィッチ幼稚園	・掃除機1台 ・掲示板1台 ・キッチンフード	48,202
	オブルチKirdany村幼稚園	・遊具(子ども用台所、病院)各1台 ・ベンチ4台	48,756
	ナロディチ・カモミール幼稚園	・室内用運動具1台 ・棚1台	40,446
	ナロディチ・サン幼稚園	・殺菌灯1台 ・掃除機1台	43,216
	ナロディチ体育館	・バスケットゴール	46,097
	オブルチSlovechno村幼稚園	・遊具2台	32,743
ネパール		計	609,725
	ライジングロータス児童養護施設	・寄付金	409,725
	ラダクリシュナ児童養護施設	・寄付金	200,000
ベネズエラ			466,308
	バレンシア サンディエゴ	・炊き出し支援	175,000
	グアナレ Pan Del Cielo	・炊き出し支援	65,625
	クマナ Cumana Mia	・炊き出し支援	225,683
福島		計	250,000
	特定非営利活動法人 しんぐるまざあずふおーらむ福島	・寄付金	150,000
	レインボーハウス保育室	・寄付金	100,000

合計 2,126,033円となりました。
温かいご支援ありがとうございました。





福島支援活動ご報告

写真：NPO花見山を守る会
高橋様Facebookページより

2021年の福島支援活動

昨年に引き続きコロナ禍の中、屋外での作業が主な支援活動となりました。人との接触を最小限とし今CheFuKoが現地に行っていることをこだわって続けて参りました。また初の試みとして、福島からライブでオンラインお花見も開催しました。

■ 2月17～18日

花見山を守る会様：山の整備、桜の樹のつる取り作業

■ 4月10日

★ライブ配信「福島応援オンラインお花見」

花見山を守る会様より中継放映

■ 5月24～25日

花見山を守る会様：山の整備、畑作業

■ 7月12～13日(※ボランティア男性50代参加)

花見山を守る会様：温熱&山の整備活動
おだか千本桜プロジェクト様：草刈り作業
しんぐるまざあずふぉーらむ福島様：

はちみつ228個、ランドセル5個他 お届け

■ 8月10～11日(※ボランティア男性20代参加)

花見山を守る会様：温熱&山の整備、竹林伐採
おだか千本桜プロジェクト様：草刈り作業

■ 10月18～19日(※ボランティア男性20代&大学生参加)

花見山を守る会様：温熱&山の整備
学童レインボーハウス様：先生と生徒に温熱
おだか千本桜プロジェクト様：草刈り作業

■ 11月15～16日および12月11～12日

おだか千本桜プロジェクト：草刈り作業
千本桜プロジェクト 1,000本植樹達成式典参加



ネパール



「学びたい」という
子どもたちの夢を支える



児童養護施設ライジング・ロータスに暮らす子どもたち



寄贈したコンピューターでオンライン授業を受ける子ども



オンライン授業に必要なプリンターも提供

2015年に起きたネパール大地震の後、被災した方たちへ温熱施術を提供することから始まったネパール支援活動。現在は、二つの児童養護施設（ライジング・ロータスとラダ・クリシュナコミュニティセンター）への教育支援を中心に、活動をしています。

新型コロナウイルスの世界的な蔓延の影響で、昨年度から私達スタッフが現地に行くことが不可能となり、以前のような温熱施術を中心とした活動はできなくなりました。しかし、二つの児童養護施設への支援は、現地への寄付金の送金という形で今年度も継続して行いました。

今年度はそれに加えて、児童養護施設の子どもたちがオンライン授業を受ける上で必要となるパソコン・プリンターを支援しました。

CheFuKoはネパール里親プロジェクトを通して、経済的な理由で学校に通えない等、困難な家庭環境下の子どもたちをこれからもサポートしていきます。



オンライン授業を受ける子ども

現地からの声

日本の皆さん、いつもご支援ありがとうございます。子どもたちの学費を継続的に支援していただき感謝しています。

コロナの影響で休校が続きましたが、昨年12月にオンラインで授業が再開された時は、施設にパソコンが2台しかなくて困りました。パソコン4台を寄付していただき、とても助かりました。またプリンターが無かった時は子ども達が学校の課題を印刷するために店まで行く必要があったので、とても便利になりました。子どもたちが落ち着いて学習する環境が整い、ありがたかったです。

ライジング・ロータスには現在30人の子どもたちが暮らしています。今の施設は賃貸の建物ですが、数年後には自分たちの施設を建設したいと考えています。



ライジング・ロータス施設長
ハリ・ブラサッド・シャルマさん



コロナ対策に手洗いはかせないの！オブルチ第三学校の生徒たち

命を守る・地域を支える 人道支援

ウクライナ

原発事故の先にある 社会に向かって歩む



チェルノブイリ原子力発電所事故から35年が経ちましたが、被害を受けた地域では世代を超えて今も放射能汚染の影響に苦しむ人たちがいます。CheFuKoは設立以来、そのような地域で、特に子どもを対象として支援活動を続けています。

今年度は新型コロナウイルス蔓延の影響で現地で直接、活動をする事はできませんでしたが、現地パートナーであるチェルノブイリ・ホステージ基金と協力して、子ども関連の病院・学校・幼稚園などに、コロナ対策の物資やそれぞれのニーズに基づいて、物資提供を行いました（詳細はP3支援物資一覧を参照）。

原発事故の影響、また新型コロナウイルスの影響も受けやすい子どもたちが健やかに育つことができるように、今後も支援を続けていきます。



幼稚園に提供した殺菌灯

現地のストーリー

ジトームル子ども精神病院は、ジトームル市内にある病院ですが、オブルチやナロディチを含むエリアから患者がやってきます。被曝した親から受け継いだ染色体の異常や、自閉症、ADHDなどの子どもたちが入院しています。



病院に提供した空気循環器

この病院に今年、備え付けタイプの殺菌照射器2台と空気循環器1台を供与しました。院内感染のリスクを軽減するために、殺菌照射器は受付と子どもの遊び部屋に取り付けられました。

オブルチ第三学校は、小学生から高校生までの300人程の子どもが通う学校です。2018～19年度の福島ウクライナ子ども交流プログラムの対象校であり、計8名が来日しています。

この学校には、今年は、感染症対策に必要な



運動用マットに座る子どもたち

衛生状態を保つためにソープディスペンサー10台と給水機5台を提供しました。また、体育授業中の生徒の安全を確保するために運動用マット3枚、畳4枚を供与しました。

ベネズエラ



子どもたちと地域に食料を届ける



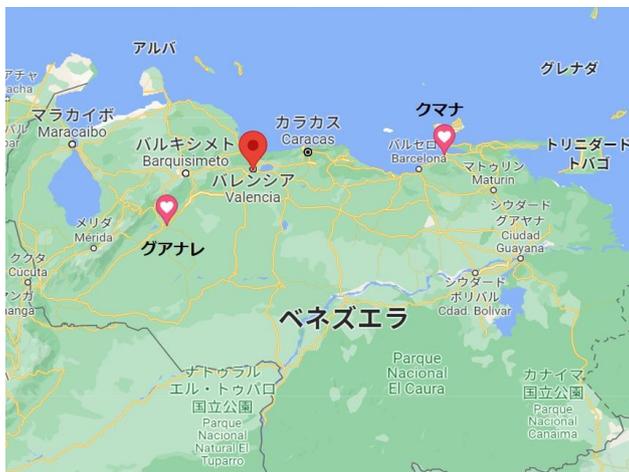
2014年の経済破綻以来、ハイパーインフレの影響で苦しむベネズエラ。約90%の家庭が十分な食べ物を入手できず、慢性的な栄養失調のために学校に通うことができない子どもたちがたくさんいます。

CheFuKoは2018年末に南米で敢行した取材調査の結果を基に、2019年からカラボボ州の州都バレンシアで支援を開始しました。今年はバレンシア市内の炊き出しボランティアの皆さんにより月2回程の炊き出しが120名の子どもたちに行われました。また今年度は支援先が2か所増えたので（右コラム参照）、現在はベネズエラ国内の3か所で子どもたちへの炊き出し支援を行っています。

ベネズエラは治安が悪く現地に全く行けない状況で支援を開始しました。今はコロナウイルス蔓延の影響で、現地に行くことができませんが、今後も新たな支援先の開拓も含めて、子どもたちへの支援を続けていきます。



食事を受け取った少女たち



グアナレの子ども食堂で、食事を受け取る子どもたち

新たな支援先①

Cumana Mía

スクレ州の州都クマナ市内で子ども食堂を運営する非営利団体です。慢性的な栄養失調の子どもを対象として、市内2か所の子ども食堂で週5日、食事を提供しています。子どもたちの身長・体重の計測も定期的に行っており、体調の悪い子どもには薬も提供します。

この団体に今年度から新たに支援を開始し、年間を通して炊き出しに必要な資金提供をしています。



代表のミランダさん



子ども食堂の様子

新たな支援先②

Pan Del Cielo

ベネズエラ西部の町グアナレで子どもへの支援をしているボランティア団体です。定期的に子どもたちへの炊き出しや古着の寄付、缶詰や米などの配布を行っています。

この団体に今年7月から支援を開始し、炊き出しへの資金提供を毎月しています。



子ども食堂の様子

◆ 温熱チーム 活動報告 ◆

温熱チームの目的

- ①目の前にいらっしゃる被災避難者の方々に、避難の影響による疲れやストレスを解消していただくこと。
- ②子供たちを元気にするために、まず周りにいる大人たちから元気にしていくこと。

福島

今年度は昨年に続き新型コロナウイルスの影響で、温熱チームとしての施術活動はほとんど行えませんでした。そんな中、花見山を守る会様のお部屋をお借りして、わずかながら温熱チームの活動をいたしました。今回は温熱施術を受けた感想を伺ってみました。



福島市 K様

花見山では温熱チームの施術を待ち望んでいる方が多いです。からだのあちこちが悪い方が多いので、毎週でもやってほしいです。CheFuKoの皆さんには、山の作業と温熱施術の半々に分かれている作業をしてもらえ、人手が欲しいときに普段できないことができるので、大変ありがたいです。

福島市 T様

前回温熱施術を受けた後、足の調子がよくなりました。月に一回来ていただくのはとてもうれしいです。技術のある先生ではなくても、若いボランティアの方に温熱器を使って温めていただくだけで気持ち良くて寝てしまうこともあるのが良いところだと思います。



ウクライナ



ウクライナではガリーナ先生がCheFuKoから貸出した温熱器を使用し、多くの患者さんの「痛み」の緩和に活用していただいています。

消防士病院長ガリーナ先生

温熱チームに参加するには？

計15時間（2～3日）の研修を受けていただき、サーモセラピストの資格を取得していただけます。この研修は、温熱チームとしての活動に参加することを条件に無料で受講できます。毎月1泊2日で福島へ行っております。東京の御茶ノ水集合で出発、いつでもご参加のお申し込みを受け付けております。

～編集後記～

新型コロナウイルスの影響で思うように活動ができない中、今年後半は福島県南相馬市の「おだか千本桜プロジェクト」に草刈りのお手伝いに通いました。また、ベネズエラでの炊き出しは新たに3か所目の支援を開始することができました。海外渡航が叶わない中でやれることに限りはありますが、今後も今できる支援活動を続けてまいりますので、引き続きご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

発行：一般社団法人 世界の子供たちのために (CheFuKo)

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台2-5-1住友不動産御茶ノ水ファーストビル8階

TEL：03-5577-3155

FAX：03-3291-0011

E-mail：info@chefuko.org

URL：

http://www.chefuko.org



<https://www.facebook.com/CheFuKo/>



@CheFuKo_japan



Instagram



CheFuKo通信 vol.19
2021年12月14日発行